

平和への誓い

人間はだれもが、夢と希望に満ちた、幸せな生活を送ることを願っています。

53年前の一発の原子爆弾^{ばくだん}は、明日に向けて懸命^{けんめい}に生きようとしていた人々の望みや願いを一瞬^{いつしゆん}にして奪^{うば}い、家族との団らんや、思い出いっぱいの町並みを消し去り、多くの人々の心に、深い悲しみや苦しみを残しました。

私たちは、平和記念資料館^{おそ}を見学したり、おじいさん、おばあさんの話を聞いたりして、原爆の恐ろしさや、廃墟^{はいきよ}の中から立ち上がり、平和への強い願いをもとにこの美しい町ヒロシマを築き上げてきた人々の心を知り、平和が、どんなに大切なものかということについて学んできました。

なぜ、世界には今も核兵器^{かく}があり、核実験が行われるのでしょうか。多くの平和を願う人々の声がありながら、世界ではなぜ紛争^{ふんそう}が繰り返され、私たちと同じような子どもたちが傷つかなければならないのでしょうか。また、私たちの日々の生活の中にも、暴力や弱い者いじめなどでお互^{たが}いが傷つけ合い、悲しい思いをしている友達もいます。

今、これまで学んだことをもとに、だれもが安心して暮らせ、生きていて楽しいと思える本当に平和な世界を、みんなで力を合わせて築いていかなければならないと思います。

そのためには、私たち一人一人が、身近な生活の中で、命の大切さをお互いに認め合い、勇気を持って正しいことを実行することが大切です。それが、平和への第一歩となるのではないのでしょうか。

私たちは、未来を生きる広島の子どもとして、これからも核兵器の恐ろしさを伝えていきます。そして、夢と希望をもって、世界の友達と手を結び、本当の平和をつくり出す心が世界中に広がっていくよう努力することを誓います。

平成10年（1998年）8月6日

子ども代表

広島市立草津小学校6年

広島市立翠町小学校6年

おおたに
大谷
ほりこし
堀越

かい
快
ちひろ
千尋